

よい。と云え云はれた。

我々はこの覺書案に對して如何なる態度を取つたか？

是處で考へねばならぬことは實は大橋氏の奔走よりも数日前より協同會の調停運動が内々進められて現に辰夫は協同會の添田、大月氏等と會見もして居り、且つ添田氏は、天野千代丸初め、市長、警察部長等とも會見して相當話が進めなければならぬのである。

然るに、彼辰夫が一方に斯る調停運動があるにも拘らず何が故に或時は彼れ自身交渉の任に當り、今また大橋氏と斯の如き覺書まで作製して解決せんとすか？

當時これまた、調停運動に奔走せる眞下氏其他よりの情報によれば「辰夫は他人の手で解決するならば俺の手で解決したい」と云ふ氣分が充分にあると云ふことであつた。故に於て我々もヨシ辰夫が眞に争議を解決する意志があるなら我々も其の語に應じようと云ふことにした。而して争議を代表して南君は覺書案に對して右の如き回答をした。

▼解雇者の数を極力減らすこと。▼解雇者に對する手当及貸與すると云ふ金の額を定と云ふが如き曖昧なことでもなく確然とすること。▼争議中の日給及争議費用等に就ては會社の體面も考慮し嚴重に名目のことをわかれ、引換へから相當のことをする事。▼然して斯の如く細目に語をせず、引換へて總額幾何で語を決めては如何。▼十二ヶ條の要求に就ては一應懇談の中に語を決めること。

鈴木幸作氏の奔走

呆れた辰夫の態度と其の内幕！

龍義團のこの回答と内示案を見て大橋氏は辰夫等と會見し、鈴木氏また「コレナラ物になる」と、丁度開かれた樂器會社の重役會議に持ち出して解決のため語を進め様とされ、大橋氏もまた重役會議席上に訪問交渉を進めんとせられた。然るに驚くべしこの覺書案を見た天野千代丸は烈火の如くに憤り、辰夫に對つて「何故にコナラ語を進めた！貴様は俺の敵だッ！」と罵つた所か更に驚くべし再三大橋氏のみならず他に同僚者ある所に於て彼を彼の覺書案を「全然私は知らん」と稱して責任を回避したことである。彼れ語らずしてどうして大橋氏の知り得やう。

辰夫が言つたか言はぬか、若しそれ「野田氏との會見内容」及び次に現はれる「添田氏の調停案」を見れば一目瞭然である。即ち辰夫の大橋氏との間に取り決めた案なるものは決して架空なものでない。相當親父千代丸とも連絡あるものなのである。

問題は是處にある！辰夫が親父の一喝に縮みあがつたからして彼れを意氣地なしとは言つてはならぬ。また親友に食言し、男を丸擧れにして然かも一言も辯明しなかつたからと言つて、彼れを親孝行者と云つてはならぬ。要は算盤が所要であり、損得の勘定が斯く爲さしめたのであつた。

る方法を以て争議團員を此處に到らしめんと誘導した幾多の事實の存在するに於ておや！

添田氏の齎らした解決案と我が争議團の態度

この混亂と怒濤の中に添田氏より拾餘日の奔走の末に成ると云はれる一つの案が示された。

▼會社は一日解雇したる職工の中から會社現在の狀態により設備の上之れ（先に五百名と發表があつた）を採用し從來の勤続年数は通算す。

▼右採用者にして事情困難なる者には復職後に於て出來得る限り最善の方法により之れか救済策を講ずること。

▼採用に至らざるものには、各自の勤続年数及賃銀を標準として總額に於て金三萬圓を支給す。

この大争議を解決するに珍らしくも、突飛な、思ひ切つた案である。勿論この案で争議が解決するなどは夢にも想像されなかつたことであらう。

然し十數日間奔走の結果得たる解決案が斯の如くにして、之れ以上會社を譲歩せしめ得ざりしとせば添田氏の勞苦實に察するに餘りある。

今争議團は九百名である。何人も一日して解雇する如く此の案に依れば全員解雇されることになつてゐる。然して「採用」云々「復職」とか廻りクドイ言葉を使つて其の間を曖昧にし、更らに「採用に至らざる者」と稱して、結局、要求條項の一切を踏躓し、然かも解雇手當九百名分を四百名分で譲渡化せうと云ふ語に以て念の入つた強奪な天野でなければ考へ得られぬ案である。我等は今日の不評事を惹起させまいために如何に努力したか、如何に譲歩したが！

然し彼等強奪なる資本家階級はコノ我々の誠意ある譲歩を何時も我等が弱音を吐いてゐるのだと、考へ違ひをしてゐたのである。

我等は既に今日まで譲歩の出来るだけはした。然し、モウ之れ以上斷じて退かぬ。七月二十日争議團各代表者會議はコノ解決案に對し

「總員解雇ならソレ一切會社と縁切になつてゐるのだから總員解雇手當を「出せ」云、而して「各班より一名死の交渉委員を選び、右の方針で、斷乎として接觸すること」を決議した。

之等代表は、野田、中村、而氏と共に同夜、添田氏と會見して右の趣旨を傳へた。今我々と會社との意見の相違は新聞紙の傳へるが如き取捨範圍、參拾萬圓と云ふ點で争つてゐるのではない、徹々、數萬圓の問題なのである。

既に同志數拾名を犠牲にした。何の面目あつて之れ以上の譲歩が出来るか！龍義は既に九十日になる！

これ即ち争議團が必死の覚悟で踏つてゐることを譲するものなることは云ふまでもないが、一面又、全國に於ける無産階級の絶大なる物質的精神的援助に依るのである。

我等は全國の兄弟に、樂器争議の經過と現状を報じ、更らに最後の應援を切望する次第である。

日本労働組合評議會本部

大阪市此花區玉川町四丁目五三